

女川ボランティア報告

2011.4.24

*** 報告者: 伊藤 健一 <大和市在住、泉の森ボランティア>**

*** 活動期間: 4月11日(月)～16日(土)**

*** 報告内容**

1. 被災地状況 (自分なりの地図解析)

2. ボランティア活動日誌

3. 被災者・避難所生活

4. 女川町復興の歩み

5. 泉の森ボランティアで何かできないだろうか?

1. 被災状況

2月末の町人口10,016人 (2月)
死者:429人(4/17)
行方不明: 1066人(4/17)
避難者数: 2069人(4/17)
6405人(3/25)

女川町 (赤色は15m以下の地域)



宮城県

(赤色は標高4m以下の地域)



女川町主要部(1)

(赤色は15m以下の地域)

津波高さは14mと
言われているが、

津波はトンネルから
吹き出し(トンネル
入口で約15m、
出口で20数m)、

峠を越えた

駆け上がる波は
20m以上
30m前後に
なっていたと
思われる。



女川町主要部(2) (赤色は20m以下の地域) < Kashmir設定は30m >

町立病院・福祉センター



* 第二小学校(町役場移転先、ボランティアセンター)、
* 総合運動場(避難所、自衛隊基地)

マリンパル女川



KNさん宅

HYさん宅

石巻線) 女川駅跡

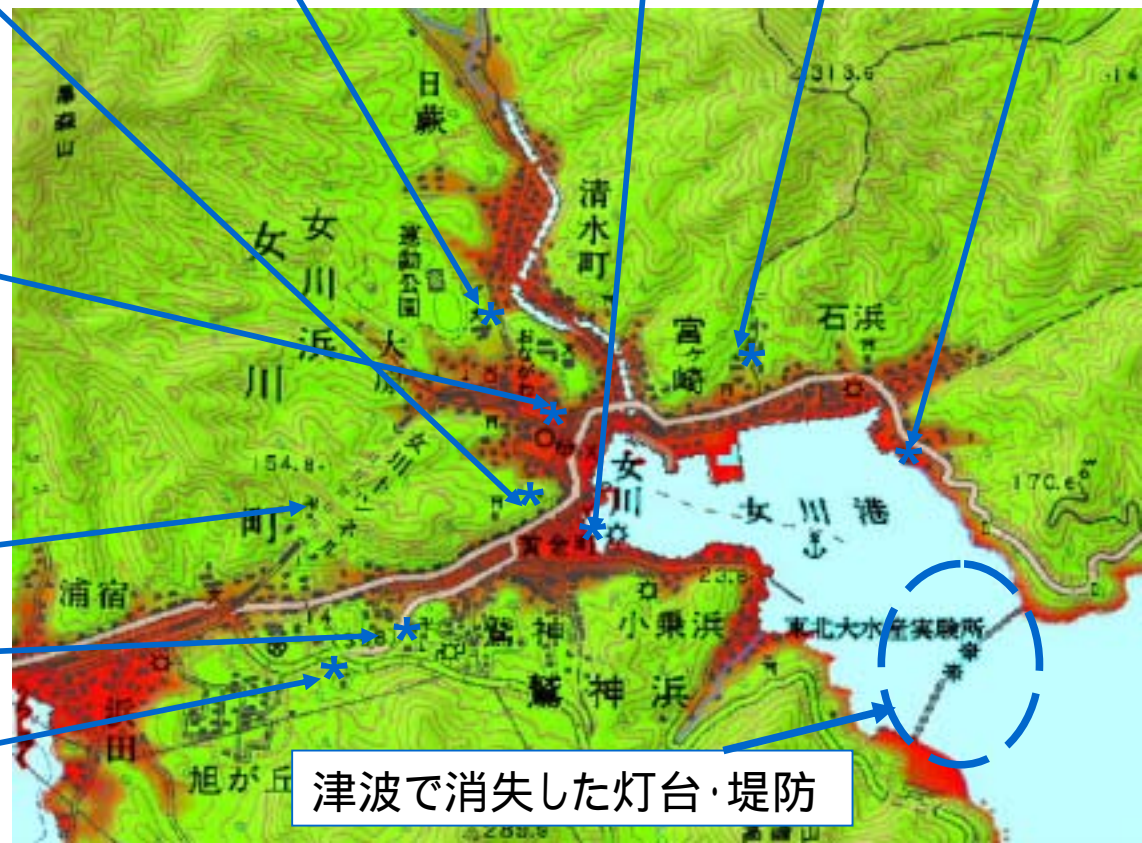


FNさんの寺子屋 / 照源寺

勤労青少年センター
(FNさんの避難所)

仮土葬所

津波で消失した灯台・堤防



福祉センターからのパノラマ

住宅が残っている境目のライン

ビル屋上に逆さで乗っかってる車

4月11日撮影



立ってる場所から流れ落ちて潰れている福祉センターの車

FNさんの知り合いの方のご遺体が14日に見つかった場所

津波が来たときの風景(仮想図)

津波濁流



実際は、このビルも波に飲まれた
…撮影地点が津波高さより低かったため

2. ボランティア活動日誌(1)

* 11日早朝、仙台を出発し、8時過ぎに女川着。まず、勤労青少年センターにいるFNさんに会い、寺子屋場所を提供している照源禅寺に行って問題集等の差し入れを渡す。その後、第二小学校にあるボランティアセンターに行き、ボランティア登録後、活動を開始。ボランティア活動は9時受付後、その日の活動場所を指定され、16時迄。

* 11日午前：福祉センターに行き、津波で汚れたごみ袋の泥落とし、整理・移動を行う<社協の方と、KSさん、YKさんと>。

* 11日午後：HYさん宅の泥出し・廃棄物搬出<KSさん、YKさん、Y君(地元中3)>と> HYさん宅は海際にあり、津波にすべて吞まれたが、屋根の一部損傷だけで奇跡的に残った家。ご主人は、水産業を営んでおり、隣接工場3棟で残った1棟と共に、再建する意欲満々。ただし、家具・衣類等すべて泥・油まみれ(対岸の工場から魚油が流れてきた)・魚まみれ(秋刀魚・鯖等・・・加工原料)であり、家の中はまさに壮絶。しかも、家再建のための耐震検査を受けるため、ご主人が、壁の石膏ボードの撤去も始めており、とても一日では済まず、継続となる。



照源禅寺・・・FNさん塾で
清掃奉仕をしていた縁



ごみ袋は授産所
製品・・・売り物に
ならないと嘆いて
いた・・・どうなるの
だろう？



HYさん宅内部

2. ボランティア活動日誌(2)

* 12日午前: KNさん宅 泥出し・海水出し・家財搬出 < KSさん、YKさん、IKさん達と >

傾斜地にあって、津波当時2階に避難して無事だったが、奥さんは町役場勤めのため、片付けの間もなく、出勤。そのまま役場で、介護も含め、仕事・仕事・・・1ヶ月ぶりに家に戻って啞然とした、とのこと。ご主人は女川原発勤めで、同様。息子さん(Fさんの教え子とのこと)と一緒に片付けているところに応援に行った。瓦礫集積場まで50mくらいの坂があり、ご主人が借りてきたトラックに、畳やひっくり返っている冷蔵庫、洗濯機等、一階のものを積み込み、移動して積み下ろし、の連続。

* 12日午後: HYさん宅へ < 午前メンバー + 福井から来られた2人 >

昨日の続きだが、人数も増えたので2階と1階に別れて、ごみ出し。2階のごみは、窓から投げ棄て。私は1階を受け持ち、奥さんと娘さんが黙々とやっていると、家具等の大物出し。ご主人がねこ車(一輪車)を借りてきたので、能率良くなってきたが、ごみが溜まって棄て場所がなくなってくる・・・壊れた扉等をごみの上に渡して、遠くに棄てられるようにして、やはり、皆、黙々。時々、サンマやサバが現れ、海水・魚油と混じって、作業着がどんどん臭くなる。

・・・ということで、終了後、総合運動場テニスコートに開設されている自衛隊風呂“弘法の湯”に初めて入り、隣接洗濯場で、作業着・長靴の臭い取りお湯拭きを行う。



自衛隊設営の“弘法の湯” 左、女風呂、右、男風呂

2. ボランティア活動日誌(3)

* 13日午前/午後: HYさん宅継続 < KWさん、YKさん、原発のある青森県東通村役場から3名、
およびサイエントロジー教会ボランティア組織ミニスターから2名の計8名 >

3日目で目途を付けるため、総勢8名プラスHYさん関係者4名にて集中活動。1階の台所・風呂・トイレの設備撤去や泥出し、壁剥がし、そして衣類・本や食材等・・・とにかく物持ちのお宅で、下左の写真の通り、家の周りはおみの山になった。1階の壁剥がしが残り、それが終わってから、再度来ることになって一段落。記念写真(下中の写真)を撮り、津波にもまれた酒・ワイン等をおみやげにもらった。

HYさんは、骨組みだけになった家の柱や梁の垂直水平度を水準器でチェックし、再建の自信を深めた様子。家・工場を復活させ、女川の水産業そして雇用を守ると意欲的である。



HYさんと

2. ボランティア活動日誌(4)

* 14日午前/午後: マリンピア女川の2階レストラン食器の泥落とし

< YKさん、IKさんら総勢12名 >

前日からの継続だが、食器があまりに多いので、増員しての対応。
レストランオーナーが是非お店を再開したい、との要請によるとのこと。
2階から食器を下ろし、地盤沈下(1m沈んだとのこと)で満ちてきた
海水で泥を落とす作業である。

昼頃、女川生まれの中村雅俊(写真右中 * 印)が現れ、マリンピア
屋上から垂れ幕“女川の町は俺達を守る 中村雅俊”(写真
右上)を降ろしたが、風に煽られて引き上げ。帰り際、目の前で食器
洗いをしている我々ボランティアに“頑張って下さ~い”と声を
かけて行った。女川復興委員会のメンバーとか(後述)。

そうした最中、海上保安庁の人がやってきて、岩壁で見つかった
遺体を我々が作業している側を通して運べないか聞いてきたが、
足場が悪いとのことで、また船で別の接岸場所に移動・・・辛い現実である。

2階からの食器降ろしで階段を20往復くらいした・・・また山に
行けそうな気がしてきた。 もう一日で済みそうなところまできた。



海水での
泥落とし



2. ボランティア活動日誌(5)

* 15日午前/午後: アイルランド ダブリン生まれのSTさんの女川取材に同行<案内: 藤中さん、中本さん>
STさんは英国通信社所属。2年前に石川県小松市近くの大聖寺(加賀市)に来て、英語教師もしているとか。FNさん案内は、知人からの依頼によるとのこと。

NMさんは、女川でのFN塾の初期の頃の生徒で、車を出してくれた。仙台からバスで石巻に来たSTさんをFNさん・NMさんが車で迎えに行き、渋滞で遅れて11時半照源寺着。配給食の昼食(その日は珍しく、ピザ・フライドチキン)の後、出発。コースは、照源寺ー(徒歩)ー総合体育館ー(車)ー原発ー仮土葬所ー照源寺(STさん泊)(p.2,3の地図参照)…。以下、写真メインにて。



津波で押し流された電車



総合体育館内の避難所…
仕切りもでき、随分綺麗になった



原発までの入り江
…家や瓦礫が浮かんだままこの下に…



駅近くのFNさん宅/STさんと



物資保管所…
仕分けボランティアもいる



入り江の各部落は全滅
…津波直後の風景を残したまま

2. ボランティア活動日誌(6)



小屋取浜から原発を望む



横倒しのままの家…
宙吊りの仏壇が悲しい



コバルトラインそばの高台の
仮土葬所…FNさんが泣いて
いた

* 16日: 早朝出発のつもりだったが、避難所のおじさんが話しかけてきて、1時間以上、聞いていたらお腹も空いたので、朝食を摂ってから出発。どのみち歯科医は間に合いそうもないので、知人の親御さんの消息を尋ねるべく、東松島市に向かう。知人の名前と大体の住所しか知らないのだが、市役所災害対策本部の担当者が丁寧に調べてくれ、お父さんは新聞で見た通り津波に巻き込まれて死去、心配していたお母さんは避難所にいた履歴があり、住所を聞いて訪ねた。お母さんご家族が戻られたところに出会い、事情を話してお線香をあげさせてもらった。その後、海岸部を通り、東北道に入って帰宅。



仙台東部道路の海側の田んぼは泥をかぶり、瓦礫が散乱していた

3. 被災者・避難所生活

* FNさん： 女川に戻ってから、照源寺で寺子屋を始めているが、さらに別の避難所（海泉閣/高白浜）でも夜の塾を始めるとのこと。勤労青少年センターの避難所にいるが、スペースは一畳で、朝食7時、夕食17時、しかも消灯9時・・・STさんがprisonか、と言っていた。塾で生計を立てながら、ずっと女川で暮らしたいと考えているが、仮設住宅にいつ入れるか、塾をどこで開くか等、今後の生活設計が立てられない。

* NMさん： 震災前に離婚し、子供さんのうち一人を奥さんが引き取ったが、津波で奥さんが亡くなり、子供を引き取るための手続きで苦労している・・・膳本もなくなったし、家裁に行ったが手続きがよくわからない。ご両親のお世話もあり、土木屋なので震災復興に燃えているが・・・

* SNさん： 生ウニを乗せる台を作る工場を経営していたが、両親と家・工場を失い、奥さんが行方不明。事業再開は無理なので、友人と政府支給金を出し合っの共同ホームを考えている。またバンドも始めたいが（芸名：気まぐれ天使）、ギターも無くした。何かやらないかと思ってるが、奥さんが見つからないと、ふんざりがつかない。

* Hさん： 帰るときに話かけてきた方。藤中さんと同じ避難所にいるが、狭い中、あまり話もできないとのこと。生きてることを伝えたい人がいるとのことで、名前・大体の住所を聞き、帰宅後、電話番号を調べて連絡した。



駐車場が私の寝泊り場所

だんだん人が話しかけてくれるようになった



最終日は、お別れパーティ

4. 女川復興の歩み

* 女川復興の現在の主役は自衛隊・・・実に頼もしい。

重機で破壊されたビル・瓦礫をどんどん撤去し、街中は毎日、景色がどんどん変わっている。前述のお風呂や各種施設を用意してくれ、おまけに礼儀正しく、私にまで敬礼してくれる。韓国の徴兵制のように、日本の若者も一定期間自衛隊に入りたいと思うようになった。



総合運動場の自衛隊基地

* 町民からの復興の動き

女川町復興連絡協議会(女川FRK)の設立準備会議が14日に開催され、前述の中村雅俊もそのメンバーの一人。会長・副会長ともFNさんの知り合い(生徒の親)であり、4月19日に設立総会を行い、意見を集約して、行政に具申し、議会と合わせて三位一体で女川の復興を目指すという。役場などあちこちに生徒がいて顔が広いFNさんに、各種情報を送ってくれるよう、依頼。復興の方向性を知り、ボランティアに求められていることを知るため。



藤中さんが送ってくれた
新聞記事、右がFRK会長

* そのために、FNさんにPCを贈りたい。携帯メールだけでは限りがあるからであり、塾をやっていくにも必要だから。

5. 泉の森ボランティアで何かできないだろうか？

* 今回の女川行きにあたりYKさんから竹炭を預かって、女川ボランティアセンターに渡してきた。

* 現状被災地は、瓦礫撤去や個人宅の片付け等、まだまだ力仕事はメイン。

しかし、状況は日々変わっていき、被災地・被災者の求めるものも多岐にわたっていく。

* たとえば阪神淡路大震災での事例：被災者や民間団体等による緑化運動

・震災から5ヶ月後には、ヒマワリやコスモスの種をまく活動

・翌H8年から「阪神グリーンネット」を結成して草花の苗の配布や

“押しかけ” 緑化運動

・被災地の公園や街路樹の復旧、再建住宅の緑化を目指す「ひょうごグリーンネットワーク」設立（H8）。

全国からの募金や苗木の寄贈により、約5年間で30万本を植樹した。



河北新報

ヒマワリの種植え
(南三陸町) 4.17

泉の森ボランティアとして、何ができるか、一緒に考えませんか？

* 各種情報を集め、

連絡先： 伊藤 健一 <kenchiyo@jcom.home.ne.jp>

* 自分達でできることを考え、

弘中 健一 <hisander@gmail.com>

* なんとか実行にもっていく、

* 息長く、

E - mail にてご連絡下さい。後日、打ち合わせ開催予定。